

文部省選定

近世の技術と生活

文字の普及

■カラー・21分

■販売価格 16ミリ/160,000円
VHS/ 40,000円
(消費税別)

……文字は普及していった
生活の技術として、庶民の感情を育む文化として



▲当時の学習机・ソロバン

◀寺子屋の風景
('近世職人尽絵詞'より)



●すいせんのことば

文部省初等中等教育局 教科調査官 佐伯眞人
中学校課教科調査官

日本の近世には、近代につながる様々な技術の発展があった。この映画で取り上げている「文字」を使うということもそうした技術の一つである。

だれもが文字が読めるということを当たり前と思っている子どもたちに、文字を読み書きできることの意味の大きさを感じてほしいし、それがどのような人々の願いの反映であるかを理解させたい。また、幕末の識字率は世界的にみて極めて高かったと推測されているが、文字を使うという技術の普及が近代を支えていく大きな力となったことも考えさせたい。

中学校社会科歴史的分野の「新しい学問・思想と地方の文化」の学習に役立てられる他、身近な地域の学習にも活用できる。また、高等学校日本史A・Bの近世の学習や主題学習などにも利用できる。

この映画の主な舞台は群馬県であるが、この事例を参考にし、それぞれの地域における寺子屋の発達やそこを通じての文字の普及について、生徒自身が関心をもち、身近な地域を調べてみようという意欲を高めてくれることも期待したい。

■企画・製作 (株)桜映画社

■指導・監修 文部省初等中等教育局教科調査官 佐伯眞人
国立歴史民俗博物館教授 高橋 敏
全国中学校社会教育研究会会長 唐沢勝敏
東京都文京区立文林中学校校長

■協力

(財)日本視聴覚教育連盟

■協力・資料提供

群馬県富士見村教育委員会/柳井久雄/群馬県立文書館/群馬県立境高等学校/東京都江戸東京博物館/国立公文書館/国立国会図書館/東京国立博物館/国立歴史民俗博物館/東京大学付属図書館/東京農工大学工学部付属繊維博物館/謙堂文庫/(社)温故学会/くもん子ども研究所/他

■製作スタッフ

製作……………村山和雄 照明……………本橋俊男
脚本・演出…大島善助 音楽……………長沢勝俊
撮影……………木村光男 語り……………生野文治

●——「文字の普及」指導のために(あらすじ)

江戸時代、「文字」は主に人々を支配するために使われていた。中頃までは、文字を読める者はそう多くはなく、高札や御触れは、読める人が読めない人々に読み伝えた。

文字は近世後期、18世紀から19世紀にかけて庶民の間に広く普及した。この時期、自給自足経済から商品経済への社会変化の中、文字を使うことで自分達の生活をより良くしたいと思う気持ちが、農民や商人の間に広がってきた。

上野の国、現在の群馬県は養蚕業の先進地であった。その赤城山麓の農村、富士見村・原之郷では、4つの寺子屋がひらかれた。そこでの子供たちの学習は、読み・書き・そろばんが基本で、教科書も「養蚕往来」「商売往来」や「名頭」「村尽」「国尽」「十千十二支」など、実用的なものが中心であった。また教科書にとどまらず、師匠が買い求めた「源氏物語」や「奥の細道」なども人々に無料で貸し出されていた。

それら書物は、木版によって印刷された。一文字一文字版木に彫り、手作業で摺って印刷した。その職人たちの印刷技術は優れたものであった。人々は印刷された書物を、貸本屋から借りて読んだ。当時十返舎一九著「東海道中膝栗毛」は、文字だけでなく絵も取り混ぜ、人気をよんだ。本の他にも引札(広告ビラ)、瓦版、そ

してカルタなどを通して文字は人々の間に浸透していった。式亭三馬は「浮世風呂」の中で、江戸の子供たちが琴や三味線などのお稽古事とともに寺子屋へ通っていたことを描写している。

やがて、文字は単に生活を良くする手段としてだけでなく、句集の発達に見られる様に生活の楽しみや、人間の感性を育てる役割も果たすようになる。

最近の研究では、寺子屋は群馬県に1,500、日本全国では60,000はあったと考えられている。その根拠になっているのが筆子塚で、師匠の徳をしたって筆子たちが建てたものである。

幕末の識字率は、世界的にみても極めて高かったといわれている。このように文字は多くの人々の手にわたり、新しい力となって、近代日本を築く大きな役割を担っていったのである。



一冊分の版木



引札▲



▲養蚕草
▲商売往来/百姓往来



高札▲

●歴史の背景

- 1612 幕府、天領でキリスト教禁止
- 1639 鎖国の完成
- 1649 慶安の御触書
- 1688 井原西鶴、浮世草子「日本永代蔵」刊
- 1690 徳川綱吉、湯島に学問所開設
- 1774 杉田玄白「解体新書」刊
- 1802~ 「東海道中膝栗毛」刊
- 1809~ 「浮世風呂」刊
- 1811 ゴロウニン事件(1816「日本幽囚記」刊)
- 1833 歌川広重「東海道五十三次」刊
- 1839 富士見村原之郷に寺子屋出現
- 1853 アメリカ使節ペリー浦賀に来航
- 1868 明治天皇即位/五箇条御誓文
- 1871 廃藩置県、文部省を置く



●——「用語」理解のために

慶安御触書

幕府が農民に勸農・勤勉・節約など日常生活の心得を示した御触書。幕末には印刷され、代官所などにより広く配布された。

〇〇往来

書簡形式の教科書。江戸時代には、7,000種にも達した。

養蚕草

分り易く養蚕作業の手順を説明した文字入りの浮世絵。(写真)

名頭

姓氏の頭字を列挙した教科書。

村尽・国尽

近隣の村名、日本の国名を列挙した教科書。算法通書(さんぼううつしよ)

そろばんに用いた教科書。

十千十二支

「十支」。十千、十二支の組み合わせで年・月・日を表すのに用いられ、十二支は方角・時刻を表すのに用いられた。

東海道中膝栗毛

弥次郎兵衛、喜多八の旅行を描いた滑稽本。当時のベストセラーで、作者は十返舎一九。

引札

宣伝用チラシのこと。庶民の購買意欲を刺激した。(写真)

浮世風呂

式亭三馬作・北川美丸画で出版。江戸町人の人情世態をいきいきと描写した滑稽本。

日本幽囚記(にほんゆうしゅうき)

千島に來航し、捕えられたロシアの海軍軍人・ゴロウニンが松前、函館での2年余の見聞をまとめたもの。